

令和4年（2022）6月10日～6月15日

令和4年度（2022）

第2回出雲市議会(定例会)
一般質問通告一覧表

令和4年度（2022）第2回出雲市議会（定例会）

一般質問通告一覧表 目次

6月10日（金） 10:00 開会			6月13日（月） 10:00 開会			6月14日（火） 10:00 開会			6月15日（水） 10:00 開会		
順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ	順番	議員氏名	ページ
1	大場利信	3	1	玉木満	11	1	西村亮	19	1	高橋扶治夫	25
2	岸道三	4	2	後藤由美	12	2	川上幸博	20	2	木佐宏	26
3	福島孝雄	5	3	寺本淳一	13	3	湯浅啓史	21	3	宮本享	27
4	湯浅万里子	6	4	今岡久人	14 ～ 15	4	石橋広信	22	4	本田一勇	28
5	大谷良治	7	5	児玉俊雄	16	5	保科孝充	23			
6	南浩二	8	6	鐘推義憲	17 ～ 18	6	吉井安見	24			
7	錦織稔	9 ～ 10									

質問者	22 大場利信
質問事項・質問内容	
(1) 市立小中学校の教員の不足状況について	
<p>① 小中学校の教員の不足状況についていろいろ報じられていますが、本市の状況について、以下伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 出雲市の現状とここ近年の傾向 イ その原因と思われる事柄 ウ 不足状況に対する市立小中学校現場での対応策 エ 任命権者である県教育委員会の対応状況 オ 市から県教育委員会への働きかけ 	
(2) 通学路の合同点検結果と安全対策について	
<p>① 教育委員会は国からの調査依頼を受け、各小学校がリストアップした通学路の危険箇所について、道路管理者、警察、地域の関係者とともに、合同で点検を実施されたが、これについて以下伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 国が調査依頼した理由 イ 各学校において危険箇所と認定し、調査対象とした基準 ウ 対策必要箇所数と今後の工事等の実施計画 エ 工事等に当たって国からの支援が必要と考えるが、国の動きと本市の対策 	

質問者	17 岸 道 三
質問事項・質問内容	
(1) 中学校における部活動指導員の現状と課題について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 部活動指導員、部活動地域指導者の配置状況 ② 教育委員会としての配置の考え方 ③ 教員の負担軽減、時間外勤務の縮減につながっているか ④ 人材確保の取り組み 	
(2) 豪雨災害に係る土木公共施設・農業関係施設被害の復旧の現状について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 土木公共施設・農業関係施設被害復旧の進ちょく状況と今後の見通し ② 復旧の見通しが立っていない被害箇所とその主な要因 ③ 地域住民への情報提供と丁寧な説明の必要性 	

質問者	20 福島孝雄
質問事項・質問内容	
(1) ヤングケアラーの実態と支援について	
<p>① ヤングケアラーの実態について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア ヤングケアラーの定義 イ 島根県及び出雲市の実態調査の取り組み <p>② ヤングケアラーの相談対応について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 出雲市における関連部局 イ 相談窓口の一本化 ウ サポート団体・サポート施設の把握と連携 <p>③ ヤングケアラーの市民への認知について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 認知度の向上に向けての施策 イ 教育現場での取り組み <p>④ 今後のヤングケアラーへの支援(国・県・市)の内容を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 国の予算措置における各自治体の対応とスケジュール イ ヤングケアラー・コーディネーターの配置 ウ 早期発見への取り組み 	
(2) トキ野生復帰に向けた取り組みについて	
<p>① 本州側でのトキ放鳥への公募について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 出雲市の公募の考え及び今後のスケジュール <p>② トキ野生復帰に対する農地・森林環境について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 野生復帰の条件となる環境基準 イ 出雲市全域が対象となる場合の環境整備の考え方 ウ 公募が通った場合の出雲市の将来像 エ 将来的にトキが定着するための課題と実現性 	

質問者	4 湯 浅 万 里 子
質 問 事 項 ・ 質 問 内 容	
(1) 男女共同参画の推進に対する支援策について	
<p>① これまで実施してきた男女共同参画の推進に対する支援策を伺います。</p> <p>② 職場における男女共同参画の取組について</p> <p>ア 一般事業主行動計画の策定が義務付けられるなど職場における男女共同参画の取組が求められていますが、出雲市としてどのように協力されるのか伺います。</p>	

質問者	16 大谷良治
質問事項・質問内容	
(1) 民生委員の活動支援について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 近年の状況 <ul style="list-style-type: none"> ア 男女比など、本市の民生委員・児童委員及び主任児童委員の現状について ② 民生委員が活動しやすい環境整備について <ul style="list-style-type: none"> ア これまでの取組み等 	
(2) eスポーツについて	
<ul style="list-style-type: none"> ① eスポーツの可能性について <ul style="list-style-type: none"> ア eスポーツへの市の認識と考え方 イ 期待できる効果 	

質問者	2	南 浩 二
-----	---	-------

質問事項・質問内容

(1) 放課後児童クラブについて

- ① 令和4年4月1日時点の児童クラブの申込者数に対しての未決定者数は54名とのことですが、現在の状況と、今後、5年間の推移について伺います。
- ② いきいきこどもプラン（第2期出雲市子ども・子育て支援事業計画）の中の「放課後児童クラブ等の充実」の中の一文に“放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の関係部局が連携し、放課後児童対策を総合的に取り組みます”とあります。国が発表した「新・放課後子ども総合プラン」に基づいた放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体化または連携について、出雲市ではどのように考えているのか伺います。また、今後、市では増え続ける児童クラブのニーズに対してどうすすめていくのが良いと考えているのかあわせて伺います。
- ③ 今後、児童クラブを安定的に運営していくためには、児童クラブ運営全体にかかる経費のことも考えつつ、子育て支援の視点も加味しながら、利用料金を設定し、保護者などから利用料金の根拠を質問された場合に説明できるようにする必要がありますが見解を伺います。
- ④ 民設の児童クラブに対して、利用料金の金額を公設とあまり差が出ないように市がお願いすることは妥当なのか、見解を伺います。
- ⑤ 補助金を得ながら運営する制度上、民設の児童クラブが予算を繰り越し出来ず、施設の維持改修等対応できない課題に対して市としての見解を伺います。

質問者	13 錦 織 稔
質問事項・質問内容	
(1) 子どもが楽しめる公園の設置について	
<p>① 長期にわたるコロナ禍によって、幼児・児童は自宅で過ごす時間が長くなり、家族と野外で遊ぶ機会も少なくなりました。コロナ禍における家庭生活への影響についての聞き取り調査を実施したところ、「感染を避けるため野外の公園で遊びたいが公園がない」との声を多くいただきました。本市の公園の設置について伺います。</p> <p>ア 街区公園の位置と人口分布が重ならないのはなぜか。公園の設置基準を伺います。</p> <p>イ 国土交通省の都市公園法運用指針には、「住民一人当たりの都市公園の敷地面積の標準10㎡という値については、あくまでも現実性を踏まえた途中段階の目標値としての性格を有しており、10㎡を達成しても豊かさと潤いを実感できる国民生活を実現するためには、さらに整備を推進する必要がある」とされています。</p> <p>a 本市における「住民一人当たりの公園面積」の考えを伺います。</p> <p>b 全国の都市公園の整備量は平成元年と比較して、箇所数、面積ともに約2倍に増加しています。本市の公園の整備量の推移を伺います。</p> <p>c 現状の公園は市民ニーズに合致しているのでしょうか。利用実態調査、満足度調査について伺います。</p> <p>ウ 市内の平地には多くの住宅地が開発されています。人口増加地区に公園設置をすべきと考えるが見解を伺います。</p> <p>エ 荒天時、屋内の遊具で遊べるのは大型商業施設が中心となります。出雲ドームを休日に一般開放できないか伺います。</p> <p>オ 公園の防災機能、バリアフリー化の進捗を伺います。</p> <p>a 子ども用の便座</p> <p>b 段差、遊具の点検</p> <p>c 防災機能、水遊びとして井戸設置</p>	
(2) 物価高騰に伴う学校給食等に関する負担軽減	
<p>① 新型コロナウイルス感染症の長期化、ならびにウクライナ危機による物価高騰の影響が、学校給食の値上げにつながると懸念されます。学校給食の食材費は、保護者負担が原則の考え方ではあるものの、その考え方を維持しつつ、自治体の判断により保護者負担を増やすことなく、給食が実施できるよう、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の枠組みを、活用できないか伺います。</p> <p>令和4年4月1日に、内閣府地方創生推進室より発出された「令和4年度における新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の取扱について」の中において、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用が可能な事業」に、「物価高騰に伴う学校給食等に関する負担軽減」が追加されています。また、教育委員会等に対応を促進するため、令和4年4月5日に文部科学省より事務連絡も発出されています。これらを踏まえ、本市の給食費の値上げに対する考え方、物価高騰に伴う学校給食等に関する負担軽減の考えについて伺います。</p> <p>ア 学校給食の食材調達の現状と、食材費と予算のバランス等を含めた、今後の見通しについて伺います。</p> <p>イ 物価高騰による給食費値上げを抑えるため、地方創生臨時交付金を活用できるとするものです。本市においても活用すべきと考えますが、見解を伺います。</p>	

ウ 先の質問と相反する部分がありますが、地元産の食材を採用することによって、供給の安定化が図れるとともに、地域農林水産業の振興や、食育の観点からも有用と考えますが、見解を伺います。

質問者	10 玉 木 満
質問事項・質問内容	
(1) 分かりにくくないですか。「ごみ収集カレンダー」	
<p>① 新たな「出雲エネルギーセンター」が本稼働を開始し、可燃ごみの処理を通じた環境問題だけでなく、エネルギー問題についても考えることができる拠点が完成したことで、今後さらなる啓発活動などへの活用が期待されます。</p> <p>そのようなタイミングで今年度用に配布等された「ごみ収集カレンダー」は、前年度から表示や記載方法が変更されたことによって、分かりにくくなったとの声を聞きます。</p> <p>そこで、市が行っているごみ処理などについて仔細に伺います。</p> <p>ア 「出雲エネルギーセンター」の稼働状況 イ 運営に対する「エコサービスいずも（株）」と市の関わり方 ウ 「ごみ収集カレンダー」変更の経緯</p>	
(2) 部活動の地域移行に関する対応は。	
<p>① 国は令和5年度（2023）以降、休日における部活動の指導や大会への引率を、段階的に地域へ移行し、持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を目指しているが、現在の検討状況などについて伺います。</p> <p>ア 現在までに行われた検討などについて イ 市の方針について ウ 社会教育の側面からも推進すべきと考えるが市の見解は</p>	

質問者	11 後藤由美
質問事項・質問内容	
(1) 保育園の休日保育について	
<p>① 市は、保育サービスの一つとして、休日保育を行っています。認可保育所に入所している子どもが、日曜や祝日に保護者の就労等により家庭で保育ができない場合に、休日保育を実施している保育所に預けることができるものです。しかし、この休日保育に預けたいがなかなか希望がかなわないという相談がありました。そこで、伺います。</p> <p>ア 現在、休日保育をしている保育園は9園ありますが、保護者が安心して子どもを預け働けるよう、利用しやすいサービスが求められています。保護者の要望が受け入れられる状況になっているのか、現状を伺います。</p> <p>イ 保護者のニーズに応えられるためにも、保育園の実態をよく聞き、ともにすすめる立場にたって対策をとるべきです。その場合、保育園が負担増とならないことも大切です。市の所見を伺います。</p> <p>ウ 現在、公立保育園では休日保育をしていませんが、今後サービスを開始する予定はないのか伺います。</p>	
(2) 国の「水田活用交付金」カット問題について	
<p>① ロシアによるウクライナ侵略を機に世界の食料品価格が急騰し、気候危機などで農業生産も不安定化し食料危機の長期化がいられています。農業資材も軒並み高騰する中、米価など農産物価格が低迷し、農業経営が窮地に陥るのは必至の状況です。こんな時、農林水産省が昨年末に示した水田活用の直接支払交付金（水田活用交付金）のカットが、農家に新たな不安と衝撃を広げています。水田活用交付金は、水田に米以外の作物を作付けした場合、10アール当たり麦・大豆・飼料作物で3万5千円、そば・ナタネで2万円など、作物や面積に応じて農家に支払われる助成金です。ところが、今後5年間に一度も米の作付け（水張り）をしなければ対象から外すというものです。これには出雲市内でも「交付金があるからこそ所得が安定しているのになぜ」「耕作放棄地が増加する」と、様々な不安が広がっています。そこで、伺います。</p> <p>ア 現在の「水田活用交付金」の対象者数と支払い額を伺います。また、水田活用交付金がカットされた場合、市内にどのような影響がでるのか、市はどう認識しているのか伺います。</p> <p>イ 国は米の過剰に対応するとして、減反や転作を農家や営農組合に多大な負担を強いながら推進してきましたが、今度は畑作化したら交付金をカットするというもので、農家にとっては「2階に上げてはしごを外す」ものです。市として、個人農家、営農組合等に実情を聞き、「水田活用交付金」カットの見直し・中止を国に求めるべきです。所見を伺います。</p>	

質問者	19 寺本淳一
質問事項・質問内容	
(1) 新築住宅の断熱性能等級の改定について	
<p>① 1999年に新設された現在の住宅性能表示制度で示されている最高断熱性能等級は4でしたが、国土交通省は2050年カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けて、住宅の省エネルギー性能を一層向上させる必要があると発表し、今年4月から23年ぶりに断熱性能等級5を新設されました。このことにより、長期優良住宅や低炭素住宅の認定基準も変わることとなりました。また普通に住んでいるだけで、等級4と5を比較するとエネルギー消費が20%カットされると言われています。今後はさらに等級6・7を追加検討されていかれるようです。そこで伺います。</p> <p>ア これまでの長期優良住宅や低炭素住宅の新築件数。</p> <p>イ 住宅の断熱性能を向上させることによるメリット・デメリットは。</p> <p>ウ 市長が掲げるカーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けて、断熱性能強化への取組を含め、どう進めて行くのか所感を伺う。</p>	
(2) 減反政策廃止後の現状と中山間地域農業支援	
<p>① 1970年から2017年まで、およそ50年近くにわたり実施された「減反政策」が2018年に廃止されました。米の生産量抑制のために実施され、農業関係者にとって当たり前の存在になりつつあった減反政策が廃止されて3年以上経過した今、生産者や生産量にどのような変化がみられてきているのか、その現状を伺います。</p> <p>ア これまでの減反政策のメリット、デメリット。</p> <p>イ 減反政策廃止による市内の生産量の変化と生産者への影響（メリット、デメリット）。</p> <p>ウ 新型コロナウイルス感染症の影響で米の生産量以上に消費量が減少しているが、米の消費拡大対策と主な取組。</p> <p>② 昨年 of 自然災害により、さらに厳しい状況の中山間地域の特色を生かした営農と所得の確保に取り組みながら元気にするための考えを伺います。</p> <p>ア これからの中山間地域で進めるべき農業とは。</p> <p>イ 国が進める中山間地農業推進対策支援の柱である「中山間地農業ルネッサンス推進事業」と「農村RMO形成推進事業」の事業内容と市内での取組状況。</p> <p>ウ 市が行っている補助事業に複合的な補助事業も追加検討できないか。</p>	

質問者	8 今 岡 久 人
質問事項・質問内容	
(1) トキの放鳥を目指しトキと共生するまちづくりに向けて	
<p>① 5月12日、市長は「第9回斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」の会合の中で、出雲市は環境省が選ぶトキの放鳥候補地に応募すると発言されました。</p> <p>環境省が定めた「トキ野生復帰ロードマップ2025」に基づき、出雲市はトキと共生する里地づくりの調査を今年から2年間で行う計画ですが、どのエリアをどのような方法で調査を行うのかお聞きします。また放鳥に向けて地元住民、特に農業関係者の協力は不可欠ですが、共通の認識を伝え理解をいただいておりますか。そして今年度中に行う事業は順調に進んでいますか。伺います。</p> <p>② 5月6日、石川県はトキの放鳥候補地に応募すると発表がありました。出雲市との違いは、県と一緒にした取り組みがうかがえるところです。島根県とは一致協力してトキの放鳥に向けた事業が進められているのか伺います。</p> <p>③ 市民への広報・宣伝について、市報やホームページ以外の取り組みはなされているのでしょうか。今後行う計画はありますか。伺います。</p>	
(2) 原子力防災について避難行動計画の在り方は	
<p>① 今年3月議会にて、島根原子力発電所2号機の再稼働について、出雲市は容認という立場を表明されました。</p> <p>また、島根県知事も容認（5月28日現在）の意向と報道されています。</p> <p>ア 不幸な事を望むわけではありませんが、出雲市における原子力災害時の避難行動計画は、市民の皆様には十分伝わっているのでしょうか。</p> <p>広島県では5つの市民団体から、訓練実施の要請が先頃行われ、島根県と連携して広域避難訓練実施を申し入れされました。また、島根県内からの避難者を受け入れること自体知らない人が多いとの問題を提起され、住民に周知するよう求められました。</p> <p>イ 一方、出雲市は島根原発から、30キロメートル圏内と30キロメートル圏外のエリアに分かれています。</p> <p>そして、30キロメートルを超えるエリアは、避難先として、出雲市民を受け入れる計画と承知しています。そのことが関係の地区住民に対して的確に周知されているのかお尋ねします。</p>	
(3) 観光業界のアフターコロナ対応策は	
<p>① 新型コロナウイルスも少し落ち着いてきましたが、まだ収束という状況ではありません。コロナによって宿泊施設はもとより、観光業に携わる多くの皆さんは大変なご苦労を続けてこられました。</p> <p>行政におかれましても様々な支援策がなされてきたところです。</p> <p>今年のGWは、3年ぶりに制限のない中で皆さんが旅行などを楽しむことが出来ました。</p> <p>出雲エリア（出雲大社のみではなく）への入込数はどの程度でしたか。そして、お迎えをされた地元の皆様の感触はいかがでしたでしょうか。</p> <p>② キャッシュレスポイント還元消費喚起キャンペーンも実施されるようですが、もう少し先を見据えた施策はお考えなのかお聞きします。</p>	

- ③ 政府は海外からの入国制限を緩めると発表されました。航空業界は、本格的に海外路線の復活に向け準備を進められると思います。そうすれば、現在出雲に来て観光案内等に從事いただいている日本航空の社員の方々は、本来業務に戻られると思います。
- 彼女達の高い評判を聞くと、後の事が心配となります。どのような対応策をお考えでしょうか。
- ④ インターネットやSNSによる広報活動だけではなく、テレビ・ラジオを使ったプロモーションの考えはありませんか。

質問者	12 児玉俊雄
質問事項・質問内容	
(1) 自治会の合併促進について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 各自治会の世帯数の状況を伺います。 ② 自治会の合併促進策を打ち出す考えはないか伺います。 	
(2) みんなでつくる出雲の森事業について	
<ul style="list-style-type: none"> ① みんなでつくる出雲の森事業の実績を伺います。 <ul style="list-style-type: none"> ア 搬出量と補助金交付額の推移 イ 地区別の補助金交付額 ② 今年度から市産材利活用事業に包含されたが、事業の変更点の有無を伺います。 ③ みんなでつくる出雲の森事業を復活させ、拡充する考えはないか伺います。 	

質問者	6 鐘 推 義 憲
質問事項・質問内容	
(1) 本市における、厳しい経営環境にある農家への支援策と持続可能な農業の実現に向けた取組方針について伺う	
<p>① 現在、本市の基幹産業である農業は、自然災害に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大、緊迫化するウクライナ情勢等の影響により、農畜産物の需要が大幅に落ち込み、また生産資材価格も高騰するなど、大変厳しい経営環境にあります。農業は、人々の食と命を支え、環境や人間教育にも大きく関わるなど、多面的な機能や大きな力を有しており、大変重要で、かつ、かけがえのない産業です。今後とも、しっかりと地域農業への支援を行い、持続可能な農業・再生産可能な農業の実現に向けて取り組まなければなりません。</p> <p>そこで、農家の現在の厳しい状況に対する支援方針および支援策、併せて、本市における、今後の農業振興に向けた取組方針について、次のとおり伺います。</p> <p>ア 生産資材価格高騰にかかる現状認識と今後の対応について</p> <ol style="list-style-type: none"> a 価格高騰に至った原因と経過、および現状について b 今後の農業経営に及ぼす影響について c 国による、農家等への支援策の内容について d 本市における、農家等に対する支援方針について <p>イ 持続可能な農業・再生産可能な農業の実現に向けた方針について</p> <ol style="list-style-type: none"> a 有機農業および地産地消の普及拡大に向けた、本市の取組方針と支援策について b 本市の特産品のPRと情報発信に向けた、ふるさと納税制度の活用について c 本市の学校給食への地元産有機栽培米粉パンの導入について d 『みどりの食料システム戦略』に関する、本市における認識と取組の現状、今後の取組方針とスケジュールについて 	
(2) 地域課題の解決と地域の活性化に向けた、本市の「関係人口」の創出・拡大への取組方針について伺う	
<p>① 国においては、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020改訂版）の中で、今後の地方創生の目指すべき方向性として、「地方とのつながりを築く」という観点から、関係人口の創出・拡大が重要な取組であると位置づけられています。</p> <p>「関係人口」は、仕事や観光などで地域を訪れる「交流人口」や、地域に居住・移住する「定住人口」とは異なり、地域外にあって、日常生活圏・通勤圏以外の特定の地域と継続かつ多様な形で関わる人で、交流人口と定住人口の中間の概念として位置づけられています。そして、関係人口は、その地域に興味があり、かつ関与していきたいという熱い想いを持つ“ファン”とも言えます。関係人口の創出・拡大は、地方にとっては地域の課題解決や経済の活性化につながり、また、関係人口（都市住民）にとっても新たなライフスタイルの確立と、成長機会が獲得できるというメリットがあります。そして、関係人口の創出・拡大に向けた取組を進めることは、地方移住の裾野の拡大につながることもなります。</p> <p>本市においては、「出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略」および「出雲市総合振興計画」において、定住人口および交流人口の増強に向けて取組が進められていますが、今後は、「関係人口」の創出・拡大への取組も、地方創生、地域課題の解決および地域の活性化の観点から大変重要であると考えます。</p> <p>そこで、次の点について伺います。</p>	

- ア 関係人口の意義（定住人口および交流人口との違い、地域との関わり方）について
- イ 関係人口の創出・拡大への取組に関する国の方針および支援策について
- ウ 関係人口創出にかかる、島根県および県内外の他自治体の先進事例と成果について
- エ 本市における、関係人口の創出・拡大への取組意義の認識と取組の現状について
- オ 関係人口創出に向けた取組への協同労働の活用について
- カ 本市における、関係人口創出・拡大に向けた今後の取組方針および課題について

質問者	21 西村 亮
質問事項・質問内容	
(1) 公共事業に関する入札制度を問う	
<ul style="list-style-type: none"> ① 島根県と市の入札制度の相違点全般 ② 法面工の相違点 ③ 現場管理者の資格等の相違点 ④ 建設業者の地域貢献度 ⑤ ワンデーレスポンスの相違点 ⑥ 現場監督業務 ⑦ 受注者に関する手持ち 効率的な現場作業 ⑧ 組織的でシステムの取り組み 	
(2) 規制改革による経済の活性化	
<ul style="list-style-type: none"> ① 規制の緩和、撤廃 ② 規制の強化 ③ 柔軟な対応の有無 ④ 農業振興地域の除外 ⑤ 農地転用 	

質問者	28 川上幸博
質問事項・質問内容	
(1) 地域学校運営理事会制度の現状と今後へ期待される成果について	
<p>① 15年が経過したが、理事会制度が地域での認知度はどの程度あるのか伺う。また、成果と設置した意義、そして課題もあったと考えるがいかがか。 下記の3つのキーワードの言葉を基に説明をお願いしたい。</p> <p>ア 地域連携や協同 イ ふるさと教育など特色ある学校づくり ウ 学力向上対策やいじめ、不登校などの問題行動</p> <p>② 学校予算の承認や教職員の任用に関する意見の申出など理事会の権限と思うが、現在の活用状況はいかがか。</p> <p>③ コロナ禍の中で、家庭、地域とのつながりが減少していると考えますが、コミュニティスクールへの影響と対応、対策はいかがか。</p> <p>④ 運営委員会の今後への課題として、ボランティア人材の不足、理解や関心度が低い、形骸化、地域との連携・協同が不十分、地域への広報発信力が弱いなどあるように思うが、委員会としての対応、対策はいかがか。</p> <p>⑤ 運営理事会制度とは関係は薄いですが、各学校には奨学会や教育振興会などの財政的な応援団体があるが、そこからの教育備品や一般備品などの購入費は、行政負担すべきと考えるがいかがか。</p>	

質問者	18 湯 浅 啓 史
質問事項・質問内容	
(1) 総合振興計画の意見集約状況と今後の進め方	
<ul style="list-style-type: none"> ① 現在取りまとめ中の次期総合振興計画は現在どのような段階か。 ② 今後どのようなスケジュールでとりまとめ、決定されるのか。 ③ 2021年度に作成された中期財政計画との整合性はどのように担保されるのか。 	
(2) 統一的な基準による地方公会計による財務書類等の有効活用	
<ul style="list-style-type: none"> ① 統一的な基準による地方公会計による財務書類等の整備は、平成27年度から平成29年度までの3年間で、全ての地方公共団体において統一的な基準による地方公会計を整備するよう、総務省から各地方公共団体に要請され、出雲市においては、平成28年度分からの公開がされている。しかしながら、公表時期が3月であり、9月議会の決算時期と隔たりがあるため、議会のチェックや財務書類及び固定資産台帳の活用という観点から、問題が多いと考える。 集計の作業や手順の見直し、システムの見直しなどにより公表時期を早める必要があると考えるが、見解を伺う。 ② 固定資産台帳は、公共施設の管理台帳のベースとなるべきで、財務資料と管理資料とがリンクするよう部局間で帳票等を共有すべきと考えるが具体的検討はされないのか。 ③ 新エネルギーセンターのような大規模な施設などでは、単独で企業会計のように把握できる資料を作成公表すべきではないか。 	
(3) ジオパークと教育、ジオパークと観光	
<ul style="list-style-type: none"> ① ジオパークの主な活動の一つとして、教育活動（大地の遺産を教育に役立てる活動）があるが、出雲市では現在ジオパークを題材とした教育活動をどのように進めているのか。 ② ジオパークと観光は必ずしも直結しないとの意見もあるようだが、市としての取り組みの方向性と、現在の取り組み状況を伺う。 	

質問者	5 石橋 広 信
質問事項・質問内容	
(1) 災害対応経験の継承に向けての取組みに関する質問	
<ul style="list-style-type: none"> ① 昨年の7月・8月の災害に関して、当時から現在までの状況 <ul style="list-style-type: none"> ア 全体的な災害の件数（地域ごと） イ その災害の内訳 ウ 関わられた方々の状況（行政側） エ 現在の被災状況及び地元の皆さまの要望 ② 今後の取組みに関して <ul style="list-style-type: none"> ア 今年度の復旧計画 イ 復旧計画を実行するに当たっての問題点 ウ 災害発生時から今日に至るまでの課題 ③ 災害に強い出雲市の構築について <ul style="list-style-type: none"> ア 災害対策継承に向けての災害エスノグラフィー調査の出雲市としての考え方 	
(2) マイナンバーカード申請に関わる手続きに関する質問	
<ul style="list-style-type: none"> ① マイナンバーカードの申請手続きに関して <ul style="list-style-type: none"> ア 現在のマイナンバーカードの交付率 イ マイナンバーカード及びマイナポイントの特典 ウ 今後のマイナンバーカードの展望と活用 エ カード取得者を増やすための対策は ② マイナンバーカード交付申請と取得後のポイント利用・予約の申込みについて <ul style="list-style-type: none"> ア 地域のコミセン等での申請は可能でしょうか。 イ 出雲市独自のポイントのお考えはありますか。 	
(3) 障がい者手帳のスマホアプリ活用に関する質問	
<ul style="list-style-type: none"> ① 障がい者手帳の現状 <ul style="list-style-type: none"> ア 現在の障がい者手帳をお持ちの方々の状況 イ 障がい者手帳を所持する人への福祉サービスなどの支援とその周知方法 ② 障がい者向けのスマートホンアプリの活用に関して <ul style="list-style-type: none"> ア 出雲市としてアプリの利便性に対する考えは イ 今後の普及のお考えは 	

質問者	24 保科孝充
質問事項・質問内容	
(1) 人口の均等化政策を強力に進めていただきたい	
<p>① 地方都市の未来として出雲市を特集した5月1日、あるいはその後の山陰中央新報社の連載記事は、市民の皆さんに大きな自信と今後の課題について深く考えさせられた良い機会であったと思います。児童増加サイクル・充実の医療体制・雇用の受け皿など、細かく分析してありました。今後も続くこの特集記事に、注目していきたいと思います。</p> <p>12月議会の質問において、現在策定中の総合振興計画の中で、「農業振興地域の整備に関する法律」における線引きの変更による人口の均等化について考えていただきたいと要望・提案いたしました。適切ではないという答弁でした。人口の均等化について危機感を持たれている方が相当いると感じておりますし、出雲市が等しく発展するには、お互いに大きな覚悟をもって進めることが重要と思います。</p> <p>今後に向けて、現在の実態と将来へ向けての施策を伺います。</p> <p>ア 斐川地域における各コミセン単位での人口について過去10年間と将来10年間の状況・予測。</p> <p>イ 斐川地域における各学校の児童生徒数・クラス数の過去10年間と将来10年間の状況・予測。</p> <p>ウ 「農業振興地域の整備に関する法律」に基づく農用地区域の変更（いわゆる農振除外）について、地域の人口バランスを勘案し、住宅開発に関しては、要件を緩和した対応ができないか。</p>	
(2) 要支援者の避難行動計画を伺う	
<p>① 令和4年度の市長施政方針の中で、市長は避難行動要支援者の個別避難計画について、作成率の向上と内容の充実を図ると述べられました。</p> <p>国においては、令和3年5月に「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」を改定し、市町村に5年程度で作成を取り組むよう求めています。</p> <p>集中豪雨災害の発生が心配される中で、計画の早期作成を求める関係者の要望は強いと感じています。進捗状況を伺います。</p> <p>ア 地区災害対策本部全体の作成進捗率と今後の予定</p> <p>イ 要支援者把握の実態</p> <p>ウ 情報の共有とプライバシー 例・防災安全課・福祉推進課・民生委員・コミセン</p> <p>エ 個別計画の内容 避難場所・避難支援者の氏名・連絡先</p>	

質問者	1 吉井安見
質問事項・質問内容	
(1) 地域防災力の向上を	
<p>① 自然災害が頻発化、激甚化する中で地域防災力の向上が求められています。防災・減災型のインフラ整備を進めるとともに、各地にある消防団など地域に根ざした防災組織が果たす役割も大きくなっています。一方で消防団員等の確保に苦勞している地域もあります。</p> <p>ア 消防団への加入状況と促進のための市の取り組みについて伺う。</p> <p>イ 消防施設の老朽化が進んでいるが、改修の計画や進捗について伺う。</p> <p>ウ 火災だけでなく水防団として水害時にも出動する場合もあるが、それに対応した訓練の計画などがあるか伺う。</p>	
(2) 物価高騰から市民の暮らしを守る対策の拡充を	
<p>① 長引く新型コロナウイルス感染症による景気低迷に加え、物価高騰が市民の暮らしに一層の困難をもたらしています。</p> <p>ア 市内事業者への直接支援や公共料金・税の減免、猶予措置を講じることが必要と考えるが、市の認識を伺う。</p> <p>イ 住民税非課税世帯などへの市独自の支援を求めるが、所見を伺う。</p> <p>ウ 給食費を値上げする自治体も出はじめている。出雲市においては、保護者への負担増とならないように対策を求めるが、市の考えを伺う。</p>	
(3) 持続可能な農林水産業を	
<p>① ロシアのウクライナ侵略を機に食料品価格が世界的に高騰しています。新興国での需要増や気候危機による生産の不安定化もあり、食料危機の長期化が懸念されています。肥料や飼料の高騰、米価の下落なども相まって、農業経営に厳しい現実がつきつけられています。</p> <p>ア 再生産可能な農業経営には、価格保障・所得補償を抜本的に拡充することが必要と考えるが、市の所見を伺う。</p> <p>イ 国の「みどりの食料システム戦略」では、2050年までの目標として化学農薬・肥料の使用量削減、有機農業の面積拡大が掲げられている。有機農業を広げるうえで、学校給食などへの供給が指摘されている。出雲市の計画や取り組みはどうなっているか、伺う。</p>	

質問者	7 高橋 扶治夫
質問事項・質問内容	
(1) 運転免許証の自主返納者に対する支援策とそれに伴う今後の地域公共交通政策について伺う	
<p>① 高齢者の運転免許保有者の増加に伴い、全国で高齢運転者による交通事故が社会問題化しています。そして運転免許証を自主的に返納する高齢者は、近年、かなりの増加傾向にあります。そこで出雲市における現状について3点伺います。</p> <p>ア 運転免許保有者数と免許返納者数について、市全体と65歳以上、75歳以上、それぞれ令和3年の出雲市の現状を伺います。</p> <p>イ 運転免許証を自主返納された方への出雲市としての支援策や特典を伺います。</p> <p>ウ 免許を自主返納された方や高齢者の移動手段について、今後の地域公共交通政策における出雲市の見解を伺います。</p>	

質問者	15 木 佐 宏
質問事項・質問内容	
(1) 当事者主権を踏みにじる課題は本市には存在しないのか	
<p>① 当事者主権を踏みにじる課題は本市には存在しないのか、徹底調査・結果を踏まえて然るべき対処を願う。</p> <p>ア 介護施設の女性浴室に男性職員、5月31日付け山陰中央新報《こだま》へ松江市の71歳女性から衝撃の投稿記事を拝読、万が一にも出雲市内の施設は大丈夫なのか万全を期しての緊急調査を要請する。結果に対する適切妥当な対処を願う。</p> <p>イ 小学校の夏休みが近づきました。何十年も矛盾を感じて来た【ラジオ体操の本未転倒な実施設定時間】。今年こそは、当事者の児童へ最大限配慮した施策実現実行を強く求めます。</p>	

質問者	29 宮本 享
質問事項・質問内容	
(1) 山陰道スマートインターチェンジの整備について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 山陰道の整備が進む中で、市の中心部へのアクセスを容易にするスマートインターチェンジの必要性について ② 10年前の検討時との状況変化について <ul style="list-style-type: none"> ア 駅南及び建設候補地周辺の状況 イ 国県の支援策 ③ スマートインターチェンジの整備と市南部の活性化について 	

質問者	14 本 田 一 勇
質問事項・質問内容	
(1) 昨年の豪雨災害について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 反省点はありましたか ② 対策はできていますか ③ 全日本土のう詰め大会へ積極的に参加する意思はありませんか 	
(2) 中学校の部活について	
<ul style="list-style-type: none"> ① 多伎中学校では、部活の選択肢が少なく校区外へ行く子もいると聞いております <ul style="list-style-type: none"> ア 4月から新学期が始まりましたが、出雲市内で部活のために校区外へ通学する子は何人ぐらいいるか伺います イ 12・13歳の子どもたちが、夢を抱いて各クラブに入ります。教育長は部活から何を学んでほしいと思いますか。 ウ 吹奏楽部に入って夢はプロのミュージシャンになりたい。野球部に入って夢はメジャーリーグに行きたい・・・ 残念ながら、99.9%の人が夢破れるのですが、学校教育では、夢破れたときのために子どもたちにどう指導していますか。 エ 部活動の良さをどのように考えているか伺います。 	